

令和3年3月26日

保 護 者 ア ン ケ ー ト			令和2年7月				令和2年12月			
			そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない	そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
1	教育目標	建学の精神である「誠実で信頼される人に」が生徒や保護者に明確に示され、学校教育目標に基づき運営されている	35.3 %	51.6 %	11.1 %	1.9 %	34.0 %	57.4 %	8.2 %	0.4 %
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	35.5 %	44.3 %	16.5 %	3.6 %	34.5 %	48.8 %	13.9 %	2.8 %
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	35.2 %	51.4 %	11.4 %	1.9 %	36.1 %	52.9 %	9.5 %	1.5 %
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	32.3 %	51.5 %	12.8 %	3.4 %	30.4 %	54.0 %	12.8 %	2.7 %
5	教育相談	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、悩みや相談に親身になってのってくれる	39.7 %	46.8 %	10.5 %	3.0 %	40.9 %	45.0 %	12.2 %	1.9 %
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	28.5 %	51.2 %	16.1 %	4.3 %	24.7 %	46.5 %	23.8 %	4.9 %
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	39.5 %	50.6 %	7.7 %	2.1 %	40.0 %	50.9 %	7.1 %	1.9 %
8	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	51.6 %	40.0 %	5.9 %	2.5 %	49.0 %	44.4 %	6.0 %	0.6 %
9	家庭との 連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	47.2 %	43.2 %	6.2 %	3.4 %	47.9 %	40.9 %	9.7 %	1.5 %
10		保護者会活動が活発である	23.8 %	56.8 %	16.6 %	2.8 %	22.0 %	51.9 %	23.1 %	3.0 %
11	満足度	子どもを入学させてよかった	49.7 %	39.9 %	8.1 %	2.3 %	48.8 %	43.7 %	6.3 %	1.2 %
今年度のみ		新型コロナウイルス感染症対策や休校措置中の対応等は充分であった	34.9 %	45.5 %	15.1 %	4.5 %	36.2 %	48.5 %	11.6 %	3.7 %

以 上

令和2年度 教育目標・重点行動計画 鈴鹿中等教育学校・鈴鹿高等学校（中高一貫）

建学の精神 「誠実で信頼される人に」
学園経営方針 「生徒、保護者、地域の満足度向上」
学園の標榜 「すべては生徒のために～生徒が輝く学校づくりを目指して」

教育実践目標

1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
2. 自主・自律の校風づくりをします
3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

重点目標及び行動計画

1 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応、休校措置への対応

- ① 夏休みの短縮や行事の精選を通して、授業時間の確保を行います。
- ② 休校中の対応、2次感染拡大に備え、Classiによる学習・生活状況の把握と対話、ZoomによるSHR、講座や動画の配信等、教員と生徒の協働体制の確立。保護者会のご支援により機器の充実を図り、発信力の向上と受信環境の改善を行います。
- ③ 安心・安全な学校生活のため、自宅で毎朝検温、マスク着用、登校後の手洗い、教室の換気等を徹底。教室の机、階段手すりやドアノブなど毎日消毒を行います。

2 学力向上を意識した授業力向上と進路実績の向上

- ① 各学年の模擬試験等のデータを分析し、学校全体で共有し学力向上に取り組みます。
- ② 難関国公立大学合格30名以上（東大・京大・医学部医学科10名以上）、大学入学共通テスト 各教科全国平均点+10%以上を目指します。
- ③ 教員間の授業参観や生徒による授業アンケートにより授業力向上に取り組みます。
- ④ 国のGIGAスクール構想を実現すべく、IT機器の整備・充実やネットワーク構築などICT教育環境の構築・充実を年次計画で推進します。（中期計画の初年度）
- ⑤ 教員研修の充実 初任者研修・全体研修の充実および中堅研修の構築。

3 医進・選抜、特進各コースについて検証し、それぞれの魅力化を推進します。

4 キャリア教育の体系化と充実

- ① 3～5年次における進路学習の充実を図り、適性と志望校等との最適化を目指します。
- ② 新入試制度実施初年度における情報収集を行い発信します。
- ③ 海外留学・海外大学への進学における情報収集と提供を行います。

5 生活指導・人権教育の推進

- ① 基本的な生活習慣の確立（あいさつ、身だしなみ、時間厳守、ベル席）
- ② いじめの未然防止、早期発見・対応、命を大切に、いじめや差別を生まない仲間作り
- ③ 生徒会活動の「意見箱」に寄せられた生徒の意見や要望を執行部が集約し、学校と話し合うことを通じて、より良い学校づくりに生徒が主体的に参画します。

6 グローバル教育の推進等による魅力ある学校づくり

- ① セブ島語学研修旅行の実施（検討中）、シンガポール研修(2年後に延期)
- ② HPの充実(トピックス更新頻度向上、英語コーナーの新設、保護者会欄の充実)
- ③ クラブ倉庫の新設、セーフティーボックスの新設(1年生)、読書活動の推進

学年目標

1年「誠実で信頼される人を目指す ～個人・仲間・学年レベルで～」

- 個人「挨拶の徹底」
生徒全員に自分から進んで挨拶する習慣を身に付ける
- 仲間「個性を認め合える」
道徳教育の充実を図り、安心して学校生活が送れる仲間づくりを行う
- 学年「目標を持って自ら学習する」
英語検定の全員受験（特進コース85%・医進・選抜コース全員が4級以上取得）
英語以外の検定試験（数検、漢検、文章読解・作成能力検定など）に全員が挑戦する。



2年「何事にも挑戦する姿勢の育成」

- 面談、手帳、Classiを用いて、生徒の現状を把握し、学習・生活習慣の向上を図る。提出物提出率100%
- 「授業規律」「挨拶」「身だしなみ」の徹底
- 9月学力推移調査GTZにおいて、S 15名以上、A 60名以上、B 30名以上
- 実用英語技能検定 特進コース 4級取得100%、
医進・選抜コース 3級取得100%

3年「自分のVisionを持ち、逆算的に今すべきことを考えられる生徒の育成」

- 進路意識を高め、全生徒が自分の将来をイメージできるようにする。
- 学力推移調査GTZ S3以上20名、B1以上65名
- 定期考査の得点率 85%以上20名、65%以上65名
- 英語検定 2級以上 10名、準2級以上60名、3級以上全員合格

4年「向上心を育む」

- 自分の将来を考える機会、自己を管理する方策を随時提供することで生徒の支援を行う。
- 全統高1 模擬試験において（8月・1月）
3教科偏差値70以上10名以上、60以上30名以上、50以上60名以上
- 英語検定 受験100%、準2級以上取得 100%、2級以上取得 40%。

5年「自立した学習姿勢の確立」

- 志望校が決まり、目標に向かって主体的に学習に取り組む集団の育成
- 自主学習時間 1日平均3時間以上
- 2月実施の共通テスト模試において、英数国の平均偏差値 52.5以上



6年「日々精進」

- 自己最高の更新
- 第一志望に向かって日々前進
- 社会貢献につながる自己研鑽



各教科の目標

ホームページに掲載していますので
ご覧ください。



学校法人 鈴鹿享栄学園

鈴鹿中等教育学校

鈴鹿中等教育学校・鈴鹿高等学校(中高一貫) 令和2年度教育目標・重点行動計画 自己評価

I 校務分掌等

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 現時点では未評価

令和3年4月30日現在

教育目標・重点行動計画	期末 自己評価
1 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応、休校措置への対応 ①夏休みの短縮や行事の精選を通して、授業時間の確保を行います。 ②休校中の対応、2次感染拡大に備え、Classiによる学習・生活状況の把握と対話、ZoomによるSHR、講座や動画の配信等、教員と生徒の協働体制の確立。保護者会のご支援により機器の充実を図り、発信力の向上と受信環境の改善を行います。 ③安心・安全な学校生活のため、自宅で毎朝検温、マスク着用、登校後の手洗い、教室の換気等を徹底。教室の机、階段手すりやドアノブなど毎日消毒を行います。	A 夏休みを2週間(内、1週間は課外講座実施)に短縮し、鈴青祭の体育の部・文化の部等の学校行事を実施しながらも、授業時間の確保に努めることができた。 B 先進校と比べ出遅れたが、研修を行い即座にオンラインによるSHRや講座を行うことができた。設備や機器の脆弱さから発信力に課題があったが、学校のICT環境の整備計画(令和2年度から)に保護者会からのご支援を含め発信力の向上と受信環境の改善が図られた。 B ご家庭でのご協力を初め、教室の換気の徹底や誰もが良く触るドアノブや階段の手すり等定期的に消毒を行った。若干名の陽性者があったが、原因は学校生活によるものではなく、大事に至ることは避けられた。また、学年やクラスを公表せず、SNS等で憶測や誹謗中傷することのないよう指導を徹底し、生徒もこれに応じた。
2 学力向上を意識した授業力向上と進路実績の向上 ①各学年の模擬試験等のデータを分析し、学校全体で共有し学力向上に取り組めます。 ②難関国公立大学合格30名以上(東大・京大・医学部医学科10名以上)、大学入学共通テスト 各教科全国平均点+10%以上を目指します。 ③教員間の授業参観や生徒による授業アンケートにより授業力向上に取り組めます。 ④国のGIGAスクール構想を実現すべく、IT機器の整備・充実やネットワーク構築などICT教育環境の構築・充実を年次計画で推進します(中期計画の初年度)。 ⑤教員研修の充実 初任者研修・全体研修の充実および中堅教員対象の研修体制の構築。	A 模擬試験の結果が判明次第、各学年の教科ごとのデータの分析などを職員会議で報告し、学校全体で情報を共有し学力向上に取り組めた。 C 健闘したものの未達成。教科に関しては、国語等一部の科目で目標達成。 B 各学年団を中心に授業見学を実施できた。学年によっては学年を超えて研究授業を行った。生徒による授業アンケートも実施した。 A 中期計画に基づき、キャンパス内のどこでもインターネットが使えるようにしたこと、また、生徒用のタブレットを一定数設置する等ICT環境の整備を推進した。 A 初任者研修・2年目研修を前年度より充実できた。また、中堅研修を今年度導入し、授業後の研修会も含め充実したものになった。

3 医進・選抜、特進各コースについて検証し、それぞれの魅力化を推進します。	B 医進・選抜、特進各コースそれぞれの目指す目標を学校全体で再認識し、各コースの指導の在り方について教員全体で今一度見直す取り組みを行った。今後、これまで以上に各コースの生徒にふさわしい指導方法を実現していく。
4 キャリア教育の体系化と充実 ①3～5年次における進路学習の充実を図り、適性と志望校等との最適化を目指します。 ②新入試制度実施初年度における情報収集を行い発信します。 ③海外留学・海外大学への進学における情報収集と提供を行います。	B 三重大大学連続講義 医系進学者育成プログラム(各々一部延期)に加えて、進路適性診断 大学学部研究会等を活用しながら日常的な進路学習を進めることができた。 A 混乱が続く中、迅速な情報収集と適確な判断を行い、適宜集会や懇談会にて発信・指導につなげることができた。 B 海外留学・進学説明会の実施は見送り。海外大学医学部志望者には進学事情を説明。
5 生活指導・人権教育の推進 ①基本的な生活習慣の確立(あいさつ、身だしなみ、時間厳守、ベル席) ②いじめの未然防止、早期発見・対応、命を大切にし、いじめや差別を生まない仲間づくり ③生徒会活動の「意見箱」に寄せられた生徒の意見や要望を執行部が集約し、学校と話し合うことを通じて、より良い学校づくりに生徒が主体的に参画します。	B あいさつは一定向上した。ベル席もほぼ徹底できた。 B 早期対応ができた。毎月開催の委員会で、学年からの情報を共有し、話し合えた。学校生活アンケートを3回実施し対応した。密を避けるため、計画した講座等の機会を十分持てなかった。 B 生徒会執行部から設備や生徒の防寒着について具体的に提案がなされた。以前の提案である駐輪場の照明や第2グラウンドの照明の設置が実現した。
6 グローバル教育の推進等による魅力ある学校づくり ①セブ島語学研修旅行の実施(検討中)、シンガポール研修(2年後に延期) ②HPの充実(トピックス更新頻度向上、英語コーナーの新設、保護者会欄の充実) ③クラブ倉庫の新設、セーフティボックスの新設(1年生)、読書活動の推進	○ 海外研修は、延期した。 C トピックスの過去記事の表示機能を追加した。トピックス更新頻度は前年度を下回った。従来のコンテンツ更新にとどまり、新規ページの開設はできなかった。Classi等の充実を受け、学内サイトを整理できた。EMCや生徒会と協働しコンテンツの充実に着手できた。 B クラブ倉庫全面新設、セーフティボックス設置はできた。EMCと協働し、1年生全員が参加するビブリオバトルを実施した。入賞者は、ブックハンティングを行い、蔵書の選定に貢献した。

Ⅱ 学年目標

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 通年目標のため未評価

令和3年4月30日現在

1年 「誠実で信頼される人を目指す ～個人・仲間・学年レベルで～ ●個人「挨拶の徹底」 生徒全員に自分から進んで挨拶する習慣を身に付ける ●仲間「個性を認め合える」 道德教育の充実を図り、安心して学校生活が送れる仲間づくりを行う ●学年「目標を持って自ら学習する」 英語検定の全員受験 特進コース85%、医進・選抜コース全員が4級以上取得 英語以外の検定試験(数検、漢検、文章読解・作成能力検定など)に全員が挑戦する。	B 個人差はあるものの登下校時に自ら進んで挨拶を行おうとする姿勢が見られた。 B 道德教育について、生徒の状況を見つつ、学期ごとにテーマを決めて系統的に授業を構成し実施できた。 C 英語検定について、目標達成せず。 受験率90% 4級以上取得 特進コース 48%、医進・選抜コース 90% 3級以上取得 医進・選抜コース 30% 英語以外の検定試験は一部にとどまったため、今後も継続的に声掛けを行う。
2年 「何事にも挑戦する姿勢の育成」 ●面談、手帳、Classiを用いて、生徒の現状を把握し、学習・生活習慣の向上を図る。提出物提出率100% ●「授業規律」「挨拶」「身だしなみ」の徹底 ●9月学力推移調査GTZにおいて、S以上 15名以上、 A以上 60名以上、B以上 30名以上	B 各学期1回以上の面談を実施。面談シート等を用いて生徒の状況把握ができた。Classiについては、指導不足のため入力数が少なく意義を伝えていく。提出物については学年で統一した指導を継続したが、一部提出できない生徒が固定化した。 B 挨拶は概ね達成。授業規律は一部生徒に徹底しなかった。 C S以上 3名、A以上 33名、B以上 49名と未達成。 特に、上位層の形成とB層への指導の工夫を行う。

●実用英語技能検定 特進コース 4級取得100% 医進・選抜コース 3級取得100%	B 特進コース 4級以上取得 84% 医進・選抜コース 3級以上取得 97%
3年 「自分のVisionを持ち、逆算的に今すべきことを考えられる生徒の育成」 ●進路意識を高め、全生徒が自分の将来をイメージできるようにする。 ●学力推移調査GTZ S3以上20名、B1以上65名 ●定期考査の得点率 85%以上 20名、65% 65名 ●英語検定 2級以上10名、準2級以上60名、3級以上全員合格	A 進路調べ、大学調べを徹底して行い、自己の考えをまとめ、プレゼンすることを通して、職業、学問、志望大学という切り口で自分が見えてきた生徒が増えた。 B S3以上 17名、B1以上 64名、昨年度より伸びたがわずかに目標に届かず。 C 1学期末は、それぞれ15名、64名であったが、2学期末は9名、41名となった。高校の内容が入り難化した科目もあったが、定着を図り学びこぼしを生み出さない取り組みが不可欠。 B 2級以上 8名、準2級以上 58名、3級以上 97名
4年 「向上心を育む」 ●自分の将来を考える機会、自己を管理する方策を随時提供することで生徒の支援を行う。 ●全統高1模擬試験において(8月・1月) 3教科偏差値 70以上10名以上、60以上30名以上、50以上60名以上	B オリエンテーションで得た自覚を継続するべく、HR、集会、学年通信授業などを通して、各自の将来を考える機会を定期的に提供できた。また、志望理由書、自己推薦書に触れる機会を設け、具体的な将来像に迫る機会も与えた。一方、Classiなどを活用して自己管理能力を高めようと努めたが、学年生徒全体のは向上に至らなかった。 C 1月 70以上1名、60以上15名、50以上48名で目標に達せず。 目標達成率 60以上50%、50以上80%であった。 放課後講座、朝放課後・自習室、(週末)課題など活用して学力定着を図ったが、取り組みの個人差が大きく、学年全体の結果に至らず。

●英語検定 受験100% 2級以上取得40% 準2級以上取得100%、	C 全員受験は呼びかけはしたものの達成できなかった。 準1級 1名、2級以上 16名 取得達成率14.4% 準2級以上 60名 取得達成率54.1%
5年 「自立した学習姿勢の確立」 ●志望校が決まり、目標に向かって主体的に学習に取り組む集団の育成 ●自主学習時間 1日平均3時間以上 ●2月実施の共通テスト模試 英数国の平均偏差値52.5以上	B 19時まで教室を開放し、自習する環境を整えたところ、毎日10名程度残って参加している。が、10名程度である。 B Classiに学習状況を入力する生徒は、平日は平均3時間が多い。が、入力していない生徒は、3時間を下回ると考えられる。 A 英数国の平均偏差値の目標は十分に達成された。
6年 「日々精進」 ●自己最高の更新 ●社会貢献につながる自己研鑽	A 約70%の生徒が共通テストで過去最高得点(計4回の模擬試験と比して)を獲得。 A TSを初め、SOM、MIE MEETING等の独自の探究活動は学年の原動力となった。加えて、基礎学力がそれらの礎であることをもとに、進路意識の醸成に努めることで、自己満足に終始しない工夫ができた。